

# 株式会社 山谷建設

## DX宣言書

2026年3月9日  
株式会社 山谷建設  
代表取締役 山谷 広和

### □ 経営理念

私たちは、地域の支えによって、事業を続けられていることへの感謝を忘れず、仕事に向き合います  
ものづくりを通じて、周りに感動を与え、記憶に残る製品づくりを追求し続けます

### □ DXビジョン(2～3年後にありたい姿)

事務所・工場・現場が同じ情報を共有し、経験とデータ両方の情報を基に判断ができる体制を整えることで、  
安定した品質と確実な納期対応を実現します

### □ DX戦略・施策

#### ➤ フェーズ1(現在 ~ 2027年2月)

戦略 「加工工程管理と情報共有の基盤整備」

- 施策
- より正確で安定した加工を実現するため、加工指示書・図面・注意事項・変更履歴をデジタルで一元管理し、案件・部材・加工工程ごとに必要な情報を確実に確認できる環境を整備
  - 工場での判断をより確かなものにするため、加工指示書の中で特に重要な機械設定条件や注意点をわかりやすく整理し、作業前に重要ポイントが一目で分かる指示書の運用を実施
  - 工場と事務所が同じ情報を共有できるようにするため、機械設定前の確認ルールを設けて、指示内容を共通認識とした上で対面コミュニケーションが行える加工工程管理フローを構築

#### ➤ フェーズ2(2027年3月 ~ 2028年2月)

戦略 「加工工程管理の強化と品質の安定化」

- 施策
- 加工工程全体の状況を把握しやすくするため、案件別・加工別の進捗状況を可視化し、作業の流れや滞りを早期に確認できる管理体制を整備
  - 品質の安定と作業精度の向上に繋げるため、フェーズ1で整理した内容を、加工指示書や加工工程、作業ルールへ継続的に反映する仕組みを構築
  - 誰が担当しても一定の品質を確保できるようにするため、これまで培われてきた経験や判断のポイントをマニュアルで共有し、加工工程管理の基準として活用できる体制を整備

#### ➤ フェーズ3(2028年3月 ~ 2029年2月)

戦略 「継続的な改善と顧客から信頼される加工工程管理体制の確立」

- 施策
- 加工工程管理の精度をさらに高めていくため、工場や現場からの改善提案を基に、加工工程や指示内容を見直し、継続的に改善をしていく仕組みを定着化
  - 予定変更や突発的な事象にも対応できるようにするため、加工工程への影響を早期に把握、関係者が連携して対応できる危機管理体制を整備
  - 加工工程管理・品質管理の取り組みを当社の強みとして確立するため、ハイグレード※1を目指した生産体制の社外発信による顧客評価の向上

※1 国土交通省が認定する鉄骨製造工場のランク、ハイグレードは5段階中2番目の高ランク

### □ DX推進体制

- 代表取締役がDX推進における実務執行統括責任者を務めます
- DX推進チームがDX戦略実行の中心的役割を担います

### □ DX推進目標

- 加工指示書の重要ポイント確認チェック実施率 : 100%(2027年2月~)
- 加工ミス発生率 : 10%以下(2028年2月~)